

青井記念館美術館

はぐくみ会だより

第 51 号

令和 4 年 2 月 25 日



「双鯛彫刻漆器大盆」

納富介次郎 作

初代校長の納富介次郎がデザインした作品といわれ、それまでの唐様式中心であった高岡漆器業界に新風を送り、特産品種にまで成長した初期の作品である。

彫りと平地の部分が程良く組み合わせられ、皆朱で塗り上げられ彫刻の凹凸に灰墨を入れることによって、より図柄を際立たせている手彫りの盆である。

第28回 青井中美展

11月12日(金)〜
11月28日(日)

県内42校の中学校から585点の応募があり、288点が入選、入賞した。

(絵画部門256点、内104点入選、彫刻・工芸部門、彫刻76点、内46点、工芸135点、内58点入選・デザイン部門138点、内80点入選)

各賞受賞者

青井大賞	藤田 有(西部)
富山県知事賞	河島 由依(戸出)
富山県教育委員会教育長賞	名田 纏(牧野)
最優秀賞	池田 千尋(牧野)
優秀賞	小島 巧己(北部)
富山新聞社優秀賞	松嶋 瞳奈(小杉南)
チューリップテレビ優秀賞	小島 基遥(庄川)
優良賞	前野 雅姫(志貴野)
富山新聞社優良賞	澤田 彩乃(出町)
富山新聞社優良賞	柴田 蒼汰(庄西)
チューリップテレビ優良賞	渡邊 智史(富附)
チューリップテレビ優良賞	宮腰 祥司(五西)
佳作	上田 侑芽(戸出)
佳作	渡邊 咲(五西)
佳作	西出 奈央(西)
佳作	佐伯 瞬(石)
佳作	岡崎 慧太(芳野)
佳作	有田 真央(戸出)
佳作	荒木 陽里(小杉南)
佳作	羽海 佑里(富附)
佳作	中山 乃海(南)
佳作	北島 和樹(津)
佳作	正保 咲空(十)
特別賞	宮井 晴菜(芳野)



● 青井大賞
「ようこそ」
高岡西部中学校
2年 藤田 有



● 富山県教育委員会教育長賞 「終発」
高岡市立牧野中学校 3年 名田 纏



● 富山県知事賞
「また独り」
高岡市立戸出中学校
2年 河島 由依

令和3年度 課題研究作品展

2月17(木)～3月1日(火)

各学科で選ばれた作品を展示した。

令和3年度 課題研究表彰者一覧	賞	科	課題名	氏名	
				氏	名
優	機 械	確率ゲーム『8-3』の製作	今井日和太・小泉 勇人・坂井 晶翔	西田 祥仁・山崎 大雅	勇輝・友塚
			大村 昂生・竹脇 大祐・横川 信・廣田歩沙斗	山本 巧真・糞谷 太雅	山本 太雅
	電 気	頭文字：I (Racing Simulator)	池田 光真・石出 光・大塚 彪雅・柴田 祐		
	建 築	旧高岡共立銀行 1/30 外観模型	篠井 翔生・金田 彩寧・川合 亮斗・川崎 誓也	小島 一徹・白井 愛美・高木 凌央・平尾 祐大	前田 一響・柳野 琴音・山本 翔也
	土 木 環 境	ジオラマの製作	塚越 優斗・島山 大樹・濱野 弘貴・廣瀬優衣和	室田みひろ・吉田学菜未	
	工 芸	組子行燈	辻 心愛		
秀	絵画・デザイン	玄関先のインテリア「シルウェーブ」	松島 玲奈		

企画展

夕二八夕展 ～組子屋の仕事～

5月1日(土)～5月23日(日)

職人技を活かした作品や雨晴海岸をかたどった美術組子、曙塗書院障子の建具など30点を展示した。また、木工組子の技術や歴史を紹介すると共に製作に使う道具も展示した。

株式会社 タニハタ

「組子」を製作する株式会社タニハタが、組子の歴史や技術、会社の取り組みについて紹介する展覧会を実施した。



伝統木工技術「組子」とは、釘を使わずに木を幾何学的な文様を組み付ける木工技術のことをいう。

今回の展覧会では、44年前に内閣総理大臣賞を受賞した「曙塗書院障子」や雨晴海岸から見た立山連峰を描いた「美術組子」、4メートル近くある組子のテーブル、組子製作の際に使用する木工道具など100点展示した。

同窓生作品展

7月10日(土)～7月25日(日)

今年度より尚美展の企画の変更により今期に開催した。

同窓生、教職員、生徒による作品。日本画、洋画、書、彫刻、写真、工芸など55点展示した。吹分技法による花器や井波彫刻の木彫パネル、高岡市民美術展で入賞・入選した生徒の作品展も同時に行なった。



冬(ふゆをかこむ)展

～富大芸文×工芸高どんぶりくらべ～

7月10日(土)～7月25日(日)

コンピュータグラフィックや画像処理を学ぶ富大芸文学部の研究室が学生や卒業生の作品を展示。また、発泡スチロール製のどんぶりの内側に絵を描き360度カメラで撮ってダンボールのドームスクリーンに投影する原画を披露した。

本校生徒とワークショップを行い学生と交流も行われた。



富山大学芸術文化学部 准教授 辻合秀一

「冬」は、何だろう、創作漢字だろうかと思われるかもしれませんが。実は「凵」を中国語で「凵」と書きます。くにかがまえの中に冬という字の構成が、雪国富山を連想すると常々思っていました。そこで、この企画展「凵展(ふゆかこむ展)としました。なぜなら、この企画展が「凵学」を中心としたものだからです。「凵学」は、「凵法幾何学」を短縮した名称です。現在。「凵学」は、「凵形科学」と解釈し、「凵」に関連する研究分野となっています。「凵展」は、研究や創作活動だけでなく若手の育成になればと思っています。

この企画では、発泡スチロール製どんぶりを使い簡単に全天周画像を作る方法を解説しました。その方法を使い富山大学芸術文化学部生と高岡工芸高校生が描いたどんぶり原画と、ドームスクリーンに投影した画像の比較展示を行いました。

ゼミ生の高岡工芸高校出身者が高校別では一番多くいます。この御縁で、企画展をさせて頂きありがとうございます。

デザイン・絵画科制作展2022

ギャラリーD

1月22日(土)～2月13日(日)

実習の成果と日頃から生徒が制作している自主制作品を展示した。

3年生 課題研究作品展ポスター

および製図(製品レンダリング)

2年生 デッサン、プロダクト

デザイン・環境デザイン

1年生 デッサン、実習・工業技術基礎レタリング・精密描写・エアブラシ

「デザイン・絵画科制作展に参加して」

三年 吉田 遊舞

今回デザイン・絵画科制作展に参加して、改めて自分や一緒に頑張ってきたクラスメイトの成長を実感することができました。三年生になり、専攻コースが分かれてからは、他のコースの人の作品を見る機会が少なくなり、とても気になっていたので、今回の制作展でやっと見る事ができました。どのコースの作品も一年生の頃と比べると、それぞれの個性がでており、確実に成長したのだなと感じました。そして、どの作品も私たちがデザイン・絵画科が制作したのだな、と胸を張って言うことができると思いました。また1、2年生の作品もどれも個性的で、自分が1、2年生の頃の作品と比べると、はるかにクオリティの高いものばかりで本当に驚きました。これからも「自分達の持っている力」を信じ、更に自信をもって、進学先や就職先で活躍していきたいと思えます。

工芸科作品展 2022

3月12日(土)～4月3日(日)

展覧会予定している。



同窓生ギャラリー

岩城大介展

4月3日(土)～4月24日(土)

岩城大介(58年工芸科卒)
岩絵の具や金箔を使い、自然や女性、猫などを描いた作品37点展示した。

第136回

個展を終えて
岩城大介(58年工芸科卒)



この度、同窓生ギャラリーでの個展をさせて頂き誠に感謝しております。二度目となる今回は大きい会場ではありますが、新作のみの展示にしようという決め、会期前日まで制作しました。一旦描き終えたものを出してきて直した作品も多くあります。展示するまで不安の方が強かったのですが、なんとか飾ることができ良かったです。動く雲や波、一瞬で変わる自然の表情、直に感動をとらえられる様素早い素描で描いています。今回会期中で素描作品も展示して頂きました。創作過程がわかって頂けたかと思えます。又、自分の気持ちや作品の中に取り入れる様努めました。多くの来場者の方が、反応をお聞きし、大変勉強になりました。反省すべき点は反省し、今後に生かしたいです。又、更なる精進が必要と強く感じました。良い絵が描ける様日々努力致します。

佐藤カオル子展

夢を追い続けて

4月11日(日)～4月25日(日)

「つながり」と「夢時間」と題したシリーズの油彩やデッサン、水彩画など30点展示した。

夢を追い続けて

佐藤カオル子(39年デザイン科卒)

今回で佐藤カオル子展は3回目となりました。油彩、水彩、デッサン等、30点を展示しました。美術館側の企画により、岩城大介さんとの二人展となりました。年の差は18歳あり、お互いに刺激し合い、話も弾み楽しかったです。

会期中、大勢の方々がお場に足を運んでくださり、「貴女の絵を観ていると元気になる。ありがとうございます。」と言われたことが印象的でした。

これまで我武者羅に絵を描き続けましたが、師(林清納先生)が常に言われる、「元気づけられる絵で、色彩が美しい生き生きとした絵」をめざして頑張りたいです。

寺勇木工寺直彦木創展

5月1日(土)～5月23日(日)

天然木を使った飾り台やテーブルなど、独創的な作品を13点展示した。

木を知り木を活かす

寺直彦(61年工芸科卒)

この度二回目の個展を開催させて頂きました。コロナ禍ではありましたが、今回もたくさんの方に作品をご覧頂けたことは今後の励みとなりました。

作品制作にあたり常に心掛けているのは、自身を耕し磨き続けることです。年齢・性別を越えて、見る方の心に共鳴の波動が広がる芸術作品を生み出せるよう、制作に取り組んでいるところ。皆様に感動を頂けますよう、

一年一回のこの機会に向け、新しい発想を取り入れた作品制作に挑戦していきたいと思えます。

個展へ足を運んで下さった皆様、ご支援を頂いた皆様、ありがとうございます。



第139回

INDIGO FURNITURE X
KOMEI TANAKA EXHIBITION

6月5日(土)～6月27日(日)

温かみ感じさせる木製家具や木彫で女性をかたちどった人形など100点を展示した。

「家具職人と木彫刻家のしごと」展を終えて
インディゴファニチャー

工藤悠一(47年工芸科卒)

この度は高校時代の恩師からお誘いを頂き、私自身初めてとなる個展を開催できたことを本当に嬉しく思っています。

父も祖父も家具職人ということもあって必然的にこの道に進みましたが、20代は家具製作の面白さなど全く分からず仕事に追われている日々でした。意識が変わってきたのは30代になった頃から、無垢材での家具製作が増えてきたことからです。

「木」という素材と向き合い、素材を知り、今までは使わなかった節や割れを木の個性ととらえ、あえて家具に使うというスタイルが自分の中でとてもしっかりきたのを覚えていきます。



個展では実際に作品に座ったり触れたりしていただいで、作品を通して皆様に私の木に対する思いを感じ取って頂けたのではないかと思います。今回の個展を終えて、自分の目指すモノ造りの方向性は間違っていないということに改めて感じることができ、大きな喜びと自信になりました。これからも自分の感性を信じ、使う人の暮らしがほんの少しでも豊かになるような家具を造ってきたいと思っています。

木彫刻家 田中孝明 (H9工芸科卒)

私は、1997年に高岡工芸高校の工芸科を卒業しました。

在学中は、工芸科の先生方から木工の基礎を教えて頂き、担任だった六家先生からは、人生の基礎となる井波彫刻を紹介して頂きました。その後、5年間の弟子の期間を経て、たくさんの仲間と出会い、現在木彫刻家25年目として毎日木と向き合っています。

今回の展示では、高岡工芸高校から始まり、井波彫刻を経て現在まで、自分がどのようなものづくりをしてきたかを少しだけ感じて頂けたのではないかと思います。

1997年の卒業制作で作成したサモラケの「NIKE」。子供たちの日常を切り取った作品。



2009年タイの海外制作から影響を受けた作品たち。それを生み出している工房の風景。いろんな場所、人のところに旅立った作品たちの写真。

そして今生み出している作品たち。会期中には青井忠治さんのご令孫も会場にお越しいただき、素敵なお縁を頂くことができました。歴史ある高岡工芸高校で学び、作り、出会うことができたこと。これからも、作らせていただいているという事を忘れず、自分らしく制作していきたいと思っています。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、8月18日(水)より臨時休館することになりましたので、展覧会開催途中であったが中止した。また、第9回工芸建築科同窓会作品展を中止とした。

あはたいと個展「ナナミ」

8月7日(土)～8月28日(土)

第140回

娘の「ナナミ」が生まれてからの作品を中心に36点展示した。

日本画「水のいきもの」、赤色で表現したアクリル画「Red」、動物の縫いぐるみ、陶芸など多様な作品を披露した。

あはたいと個展「ナナミ」を終えて

猪原 惟 (H18デザイン科卒)

個展「ナナミ」は、娘ななみの周囲にまつわる作品群を来場者に楽しんで頂けたらと思いい企画しました。



自宅内を彩る作品をそのまま見て頂くためにソファを持ち込み、娘のために作ったぬいぐるみを全て借り受け、観葉植物を配置し皆様をお迎えします。三歳半の娘には「私のぬいぐるみちゃん取らないでよ」と怒られましたが、頑張って許してもらった甲斐あってか、子供たちやお母さま方に大人気でした。

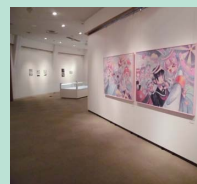
来客は娘の作品の大胆な筆致が好みの方、恐竜が好きの方、透明な内窓に描かれた絵具の色の重なりが新鮮という方、様々でした。それぞれ自身の感性によって選び出した作品を通して、自分自身の良い所を再確認、発見していました。短い期間ではありましたが、このような交流を提供できた事を嬉しく思っています。

平成30年度デザイン・絵画科同窓会「JUNIC」展

8月7日(土)～8月28日(土)

第141回

卒業して3年目に大学生、社会人となった県内外の同窓生が近況報告しようとして開催した。イラストや漫画、写真、高校時代の課題研究に再チャレンジした作品などを展示した。



島田一子作品展

12月12日(日)～1月10日(月・祝)

第142回

日本画を中心に篆刻や陶芸など61点を展示した。

島田一子 (S40デザイン科卒)



この度、青井記念館美術館のご厚意により「島田一子作品展」を開催させていただきました。ありがとうございます。総数62点(日本画・篆刻・陶芸等)を一堂に展示でき、多くの方々にご高覧、そして温かいお言葉をかけていただきました。良き自分史の一つとなり感謝しています。

日本画「春の庄川」「仏と桜」は、祈りと願いを旬日の桜に託し、一花一花を描いていた日々や、身近な草花作品は、家族への願いや感謝の思いを心に描いてきました。また、篆刻の一幅「越中万葉百歌」は、万葉集の中から越中にゆかりのある百首を会員百人で刻したこと等々……。多くのことが走馬灯のように蘇りました。今回の作品展を礎に、これからもコツコツと夢を持ち続け、心豊かでありたいと思っています。感謝しながら『今を大切にいきる』。

特別企画展

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、去る8月18日(水)より臨時休館をした。また個人的な事情などにより展覧会を開催することができなくなったので、美術館の企画で左記の特別企画展を開催した。

収蔵作品絵画展

9月14日(火)～9月25日(土)

本校卒業生、郷倉与作(千
鞆) 山崎覚太郎 篁浄信(牛
人) 十二町仁三 梅木信作
藤森兼明 頭川徹 鶴谷登
佐藤カオル子、9名の絵画
作品23点を展示した。



収蔵作品漆工展

12月12日(日)～

1月10日(月、祝)

～蒔絵・彫漆・螺鈿・堆錦～
初代校長の納富介次郎
がデザインした「双鯛彫
刻 漆器大盆」、日展理
事長を務めた山崎覚太郎
の「漆絵額 紅梅」、高岡漆器の名工初代
石井勇助による「山水草花模様茶棚」など
40点展示した。



Dream Collection 2022

3月12日(土)～4月17日(日)

デザイン研究部・ファッショントームに
よる企画展。

● 文化部作品展

従来であれば尚美展で作品展示していたが、今
回から少しでも多くの方に見てもらうため尚美展
前からの開催が企画された。

書道部・写真部・陶芸部・美術部・クラブト部・
デザイン研究部・電子機械工学部・電気工学部・
建築工学部・コンピュータ研究部など10部が日
ごろの制作活動の成果を発表した。

「尚美展企画展

～文化部作品展～」に出品して

書道部 34日 大井健太郎

私たちが書道部は、富山県青少年美術展に出品
することを目標に、夏休み中多くの時間をかけ
て作品制作に取り組んできました。ようやく作
品を仕上げ、額装をお願いしようと思っていた
矢先に新型コロナウイルスまん延防止措置がと
られ、青少年美術展が中止になってしまいました
。それでも何とか気を奮い立たせて、二年ぶ
りの書道パフォーマンスの準備に取りかかりま
したが、間もなく楽しみにしていた尚美展の中
止が決まりました。

文化部の活動は地味ですが、さまざまな展覧
会に出品して自分の作品を評価していただいた
り、他校の作品や他の文化部の作品を鑑賞した
りすることでモチベーションを高め、仲間とと
もに切磋琢磨してきました。

三年間の集大成として制作
した作品を発表する機会を
失い、悔しさと虚しさでし
ばらくは何も手につきませ
んでした。恐らく一・二年
生も他の文化部の人たちも
同じだと思います。



10月1日(金)～10月24日(日)

そんな中、本校美術館で「尚美展企画展」文
化部作品展」を開催していただけることにな
り、昨年以上に多くの文化部が参加しました。
家族も含め多くの方に日ごろの練習の成果を
見て頂くことができ、とても嬉しく思うと同時
に励みになりました。本当にありがとうございます
。一・二年生には、これからも難しいこ
とに挑戦し、作品を制作する過程にこそ自信の
成長があると信じて、より一層練習に励んでほ
しいと思います。

はぐくみ会会員募集のお知らせ

年会費(年1回納入)

・一般会員(個人)

2,000円

・特別会員(企業・団体)

10,000円

・会費納入は下記へお願いします。

(直接事務室への納入も可能です。)

郵便局

口座番号 007100031367

富山県立高岡工業高等学校

青井記念館美術館はぐくみ会

詳細は青井記念館美術館の事務担当者までお
問い合わせください。

連絡先

高岡工業高校

TEL (0766)211-1630(代)

編集発行

富山県立高岡工業高等学校

青井記念館美術館はぐくみ会

住所 〒933-8518 高岡市中央一-二〇

TEL (0766)211-1630

FAX (0766)211-1631